

東京農業大学 拓友会ニュース

第25号・2009年発行

発行所 東京農業大学拓友会

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL:03-5477-2404 FAX:03-5477-4032

e-mail: takuyu@nodai.ac.jp

<http://www.nodai.ac.jp/int/original/about/index.html>

第51期総会および懇親会のご案内

詳細は p.18 をご覧ください。

第51期の拓友会総会および懇親会を次のとおり開催致します。

今年度も収穫祭期間中になります。数々の特別イベントも計画されていますので、万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

なお、平成21年の収穫祭は10月30日(金)より11月1日(日)に開催されます。

総会

1. 日時 平成21年11月1日(日)
午前11時より12時まで
2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科
共通利用室

懇親会

1. 日時 平成21年11月1日(日) 正午より
2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科
共通利用室

農業を武器に世界へ飛び出そう

吉原 久雄 拓殖1963年卒

1. はじめに

今日は開発学科の皆さんに、私の歩いてきた約40年間の話をします。卒業後どんな組織に属し、どのような仕事をし、何処の国に出掛け、また何を学んだかなどです。

私の歩んで来た道が決して平坦ではありませんでしたが、トータル的には少しプラスの人生と思っています。今日の話が、皆さんの前途を選択するヒントになれば幸いです。

今、世界中には食糧不足で困っている、また貧しい食事しか摂れない国や地域がたくさんあります。そのような国や地域があることを良く知ってください。

素晴らしい歴史と文化があり、高度に発達した現在の日本で、高等教育を受ける機会に恵まれた皆さんは、幸せ者です。日本で生まれ育っていることは、既にそれだけで相当の価値ある存在なのです。将来途上国に行く機会があれば、自分が日本に生まれ育った幸せに気付くでしょう。また自分が有能な社会開発の指導者となれる資質と技能を持っていることに気付くでしょう。

将来、皆さんが海外へ行き働く機会はいくらでもあるでしょう。直接出掛けなくても、後衛部隊としてその活動を支える仕事かも知れません。また、来



トルコでのエダマメ栽培



トルコ農学部長と圃場にて

日する人のお世話をすることもあるでしょう。皆さんが外国と関係する活躍の場はいくらでもあります。そう、「世界はあなたを待っている!」「あなたの能力は期待されているのだ」ということを自覚してください。

皆さんは今、将来のために自分を鍛え磨き、魅力ある青年になってください。「良い男」「良い女」を目指してください。

皆さんが世界に飛び出して、知らない世界を体験し、楽しい生活を体験できることを望みます。同時に少しでも世の中のために働く機会があるよう願っています。

2. 偶然の出会いがことの始まり

不思議なご縁の話をしましょう。英語で “It’s a small world!” 「世界は狭い」という言葉があります。正にこれにピッタリの話です。

その一 2007年JICA*のシニア海外ボランティア(SV)**として、トルコのアンタルヤに住んでいました。そこで1981年に東京都立府中病院で生まれたトルコ人の娘ミネさんに遭遇しました。これだけでも「珍しいですね」という話ですが、実は私の娘は1980年に同じ都立府中病院で生まれたのでした。信じられますか。

ミネさんの父ニザム サバシュ氏(トルコ農業省元高級官僚)は、東京農工大学 農学部修士課程に留学、その時生まれたのがミネさんでした。そのころ私は同大学の近くに住んでいたの、この偶然が起こったのです。この話をメールで日本にいる妻に伝えると「世界中に何百の大都市があり、何万の大病院があるのに、娘と同じ病院で生まれたトルコのお嬢さんにアンタルヤで会うなんて不思議ですね」と驚いている返事が来ました。

その二 2009年6月、東京上野でトルコの青年実業家シェネルさんに出会いました。彼はハイポニカ(特殊水耕栽培法の施設)を、トルコのアンタルヤに輸出しようと企画中でした。同メーカーの部長さんがアンタルヤの園芸に詳しい私と彼を引き合わせたのです。何と彼は東京農業大学 バイオサイエンス学科の卒業生でした。トルコの青年で東京農大の卒業生がいて、その青年とめぐり合うとは想像もしませんでした。

3. 私の海外経験

私の海外経験は青年海外協力隊(JOCV)***、商社マン、SVなどで計約12年です。

私は卒業後三重県農林水産機械公社に就職、農業近代化のために田畑・果樹園・養殖池と農道を大規模に整備し機械化を進める事業に4年間従事しました。

最初の海外赴任は、1972-74年、JOCVに参加、フ

ィリピンマウンテン州農科大学(ラトリニダッド)での「温帯果樹」の指導でした。これは卒業証書のない留学でした。異文化での生活と業務、実に多くのことを学びました。これが海外生活の Lesson 1 でした。

帰国後、北海道立十勝農業試験場で1年間「畑作物」の研修を受けました。その後、昭光通商(東証一部上場、総合商社、本社東京)に入社、国内外の業務で25年間働きました。

商社マンとしては、1980-81年、フィリピンユニオンケミカル社(味の素(株)と現地資本の合弁会社、アミノ酸を製造販売、マニラ)で「アミノ酸副産物の有効利用 肥料化」の開発事業に取り組みしました。液体肥料を製造し水稻・サトウキビ・パイナップル農場に販売する全く新しい分野の業務、無我夢中でこなしました。これが海外生活の Lesson 2、妻と長女(8ヶ月)が一緒でした。

1984-87年、タイ味の素(株)(バンコック)で上記同様の事業に携わりました。事業の規模が大きく、業務にも慣れ、働き盛りの年代でしたから、ガンガン働き、生活を楽しみました。これが海外生活の Lesson 3、妻と長女(4歳)と長男(10ヶ月)が一緒でした。

この他、インドネシアへは同じく「アミノ酸副産物の有効利用および肥料化」、スリランカとマレーシアへは有機質肥料の市場調査、パプア ニューギニアへはコーヒー、紅茶、カカオ(種を加工してチョコレートにする)用の肥料の拡販と市場調査に行きました。

商社を退職後、一回目のSVとして、2002-04年にマレーシア農業省クムブ農業開発公社(コタバル)で「野菜の有機栽培」を指導しました。有機農業の哲学・歴史・実用技術を紹介、しかし熱帯低地での野菜栽培は病害虫と雑草との戦い、それを有機栽培で実践するのは非常に困難でした。

二回目のSVは、2006-08年、トルコ アクデニス大学 農学部(アンタルヤ)で「日本の作物栽培技術」を指導しました。内容はセミナーと講義、新作物の導入、情報と機材類の提供、日本の文化・学術交流の実施でした。

(1) セミナーと講義は、学部生と大学院生を対象に、

- 1) 日本の作物栽培技術：野菜、果樹、畑作物、土壌肥料など
- 2) 東南アジアの熱帯農業：野菜、果樹、水稻、サトウキビ、パイナップル、オイルパームなど
- 3) 日本文化：文化、生活、経済、教育、日本への留学、奨学金制度などについて

(2) 新作物の導入は、新作物4種類を導入栽培

- 1) エダマメ：アクデニス大学、アンタルヤで

初めての試み、ゆで方も紹介

- 2) ダイズ：高品質ダイズ品種の初めての栽培、ダイズ加工品の紹介
- 3) サツマイモ：高品質サツマイモ品種の初めての栽培、焼イモ・蒸かしイモを紹介
- 4) スイートコーン：適期収穫、朝採り、さつとゆでのコツを紹介

(3) 情報と機材類の提供

- 1) 情報：日本及び日本の農業について
- 2) 日本の図書：英文雑誌“Farming Japan”バックナンバー5年分(31冊)、食用植物図説、イラスト作物栽培、DVD：組織培養
- 3) 日本の種苗：エダマメ、ダイズ、スイートコーン種子、サツマイモ苗
- 4) トルコ国内業者からの寄付：鶏糞コンポスト、スイートコーン種子

(4) 日本とトルコの文化交流

- 1) 在トルコ日本大使館 田中大使による「日本の文化」講演会開催
- 2) 日本大使館の書記官による「日本留学 奨学金制度」説明会開催
- 3) フェラムズ オズデミール教授と学院生の「2007年静岡国際茶学会」参加をアシスト
- 4) 2008年、JICA研修制度で学院生を日本に送り出す計画を申請
- 5) 2008年、農学部長 ウズン教授の日本農業視察を企画、実行
- 6) 日本文化セミナー開催：2008年「禅と日本文化」、講師 彫刻家 近藤隆氏
- 7) 看護教育の国際交流：アクデニス大学 看護教育学部に日本の看護大学を紹介、交流を検討

4. 芸は身を助ける

皆さんはどんな趣味をお持ちですか？どんな特技をお持ちですか？趣味は十人十色、スポーツ・武道、音楽、美術、絵画、書、写真、コインや切手収集、骨董品、旅行などいろいろありますが、何かハマッテイルことがあるといいですね。日本でも外国でも、

「趣味が同じ」と言うだけで、見知らぬ同士がもう仲良しになれます。そして人脈がどんどん広がってきます。楽しく生活できる手立てになります。

今、時代の最先端、コンピューターを自由に操作出来る人は尊敬されます。便利屋にされてしまうけれど、大事な友達のリスト入り確実です。料理、これに勝るものはないかも知れない。外国に行って、何かの機会に自分で作った日本料理をご馳走することができたら、友達はイチコロだ。要は、何か芸を持っていれば、またこれには造詣が深いといえる趣味があれば、仲間に入れてもらえる、尊敬される、そして自分が楽しめるのです。私の場合は写真・クラシック音楽・鉄道・園芸・62歳で始めた合気道などです。

5. 頭・心・感性・身体を鍛えよう

頭と心と感性と身体を鍛えてください。今流行の言葉で言えば、「社会人力+α」です。頭は専門の農業、英語ともう一つの以上の外国語、日本の歴史と文化、リーダーシップ、管理者能力などです。学部生として農学(作物学、園芸学、作物病理学、土壤肥料学など)を学ぶことは、それらの科学の基礎を学ぶこと、その分野の学問の方法を学ぶことです。だから疎かにしてはなりません。この分野が好きだ、得意だと言えるものを見つけてください。

語学と言え、まずは実用英語、ビジネスで充分役立つレベルが必要です。例えば、今話題の、「バイオ燃料」の世界の動向をインターネットで検索しレポートを書くとしましょう。日本語サイトの検索だけでは、世界の最新情報が充分とはいえません。最低限英語サイトも検索して、まずまずのレポートが書けるでしょう。英語学校に行くとか、高価な教材を買う必要はありません。今はTVとラジオ放送で色々なレベルの英語を教えていますから、ムリをせずコツコツ努力を積み重ねてください。私はこの方法で習得しました。

皆さんは日本の歴史と文化、習慣についてよく知っていますか？日本に生まれ育ち学んでいるので知っているようですが、正確に知らないことが多々あ

株式会社 タナカ通商

真珠美の創造

代表取締役 田中博也

真珠と共に50年 何なりとお気軽にお問合わせ下さい

〒104-0061 東京都中央区銀座8-10-8
銀座8-10ビル8階
TEL 03-3571-3088
FAX 03-3571-3089
E-mail: tanaka77@gray.plala.or.jp
自宅 TEL 03-3322-1994
FAX 03-3322-1291

酒類食品問屋
大星岡村株式会社 横浜支社



代表取締役

岡村 忠雄 (専拓7期)

支社長

横浜支社 〒231-0038 横浜市中区山吹町1-7

電話 (045)261-2071(代)

FAX (045)261-4264

湘南営業所 〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市萩園1270-43

電話 (0467)57-0103(代)

FAX (0467)57-0208

本社 〒104-0033 東京都中央区新川1-7-8

電話 (03)3552-3111(代)

FAX (03)3551-7895

インターネット <http://www.oboshi.co.jp/>

ります。日本のことを外国人に英語で説明するために書いた素敵な図書が多く出版されています。私が気に入っているのは、講談社インターナショナル(株)の「バイリンガルブックス シリーズ」で、100冊以上発行されています。例えば、「イラスト日本まるごと辞典」、日本語と英語で日本の地理、自然、12ヶ月の行事、生活、誕生から教育・就職・結婚・葬式など簡潔にイラスト付きで解説してあります。まず図書館で実物を見つけ読んで下さい。海外へ出掛ける時は必携です。帰国前にお世話になった人にお土産として差し上げて下さい。

心は強い精神力、自分と家族と仲間を大切に、地域社会や他人を思いやる心、困っている人、貧しい人を助ける愛情です。感性は外界の刺激に応じて何らかの印象を感じ取る、その人の直観的な心の働き。美感・快感に敏感になり、良いセンスを鍛えてください。身体はどんな困難にあっても、不便な所に行っても、乗り切れる屈強な身体です。日本の競争社会で生活する場合でも、家庭円満のためにも健康な身体は必須条件です。スポーツ・武道、ダンス、ヨガなどで鍛えてください。

6. 食は根源、農業技術は世界中どこでも役立つ

食は人類生存の根源であり、豊かな食糧と美味しい食事は喜びです。今後見込まれる世界の人口増加に対応する食糧増産が必須です。作物栽培・家畜飼育・農産加工・農業土木・農業機械などの農業技術は世界中のどこでも役立ち、求められています。日本の農業技術を身に付けていれば、活躍の場は無量大です。実践できる技術をしっかりと身に付けてください。

7. 知らない世界へ飛び出そう、進路は無量大

あなたは将来どのような職業に就きますか？進路は百姓(農業生産者)、団体職員、商社、メーカー、教職、実業家、店主、職人、国家公務員、地方公務員、国連機関、JICAなど政府系機関、政治家、またNPOなど無量大です。要は積極的に取り組む姿勢があれば良いのです。諸般の事情で帰郷し就職する人

もいるでしょう。そんな人でも、旅行や短期間だけ海外に出て働く経験をしてみませんか。「こんな世界があるのだ」と知れば、物の見方や考え方に幅が出てきます。そしてその経験が、後日色々な場面で役立つこと間違いなしです。

8. 人生を楽しもう

あなたはどんな人生を夢見ていますか？何処で働きますか、あなたは何処に住みますか？日本国内それとも海外ですか？あなたはどんな伴侶を見つけ結婚しますか？若いあなたには可能性がいっぱい、夢と希望を持って生きてください。仕事を楽しみ、余暇を楽しみ、人生を楽しんでください。普段は八割の力で、いざ鎌倉の時は九割の力で過ごして下さい。そうすれば心と身体に余裕があり、人生を楽しむことができるでしょう。

*JICA, Japan International Cooperation Agency
独立行政法人 国際協力機構

開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的とする。主な業務は技術協力の実施(専門家・ボランティアの派遣、外国人専門家の日本での研修)、無償・有償資金協力、国民等への協力活動の促進、海外移住者・日系人への支援、技術協力のための人材の養成及び確保、緊急援助のための機材・物資の備蓄・供与、国際緊急援助隊の派遣。

**SV Senior Volunteer シニア海外ボランティア

協力隊とほぼ同じであるが、専門技術・技能のある人(40-69歳)が派遣される。

***JOCV, Japan Overseas Cooperation Volunteers, 青年海外協力隊

技術・技能を有する日本の青年男女(20-39歳)をボランティアとして開発途上地域に派遣して技術移転し、同時にボランティア自身が海外業務と生活を経験学習し文化交流する制度。

(この原稿は平成21年度拓友会講演会の講演をとりまとめたものです。拓友会ニュース編集担当)

住まい作りのトータルプランナー

宅地建物取引業 千葉県知事免許(7)第 6298 号



南房商事株式会社

千葉県茂原市高師 57 番地 電話 0475(23)3251(代表)



地域一番の品揃え



契約農家直送だからいつでも新鮮!!

テーブルガーデンセンター

TEL 045-935-4187(代)

〒226-0023 横浜市緑区小山町 611-3

代表取締役社長 篠原 敬一(拓殖20期)

ふるさとの町でおいしいみかん作りを目指して

(有)草枕グループ 右田 忠利
開発43期

皆さん、はじめまして。私は平成13年度国際農業開発学科卒業の右田忠利と申します。現在、私は熊本の天水町というふるさとの町で温州みかんを中心とした柑橘の生産・販売を行う農業生産法人を営んでいます。有明海に面した温暖な気候で古くからみかん栽培が盛んなこの地域に自社の圃場が8ha。そして、私のところに出荷して頂いている契約農家の方が10軒という小さい会社ですが、全国の取引先に販売・出荷しています。

近年、みかん農家を取り巻く状況は年々悪化し、以前はみかんの景気に沸いた地元の町も人も元気を失い、高齢化や離農が進んでいます。その様な状況において、私の父は独自の販路を開拓し、今の会社を立ち上げ柑橘栽培だけで暮らしていけるよう頑張ってくれました。ですが、昼は泥と汗にまみれ、夜は事務処理で、休み無く身を粉にして働く両親を見て、私はどうしても継ぐ気にはなれませんでした。ですから、大学卒業後は地元から離れ、公務員となっていました。ところが平成17年2月に父がベルリンで脳梗塞で倒れたことから私の状況は一変しました。その頃の父は他の農業生産法人数社と手を組み柑橘の輸出に向け動いており、ちょうどベルリンで行われる国際果実・野菜マーケティング専門見本市に出展するため渡航していて倒れてしまったのです。父は一命を取り留め、しばらくして熊本の病院に戻ることができましたが、重度の言語障害が残り、会話はほぼ出来無い状態となりました。これでは会社も家も立ち行かなくなるので親族の説得により、私が仕事を退職して跡を継ぐことになったのです。

しかし、跡を継ぐといっても栽培技術も経営も知らない私です。当初は何事も辛く、それまでの仕事と農作業のギャップに気持ちも体もついていかず何でも後ろ向きに考えていました。ある時、年配のみかん農家のおじさんの話した一言が、私を変えてくれました。

「みかんは永年作物で年一回の収穫。まだ俺も50回くらいしか栽培は経験しとらん。しかも天候は毎年違うけん未だに納得いかん事ばかりたい。」

不安と焦りで何をするにしても心がうわついていた私にとって救われるような言葉でした。みかんは年に一作、焦ったところで急に経験は積めない。腰を据えて頑張ろうという気になりました。そして、今、出来る事を考え、大学で土壌や堆肥について研究していたので、みかんの肥培管理から勉強しはじめました。机上の学習以外に経験が浅い分、人の経

験を学ぼうと各産地や篤農家、専門家を訪ね、人との交流も大切にしました。知識が深まるにつれ、施肥設計をして樹勢を少しずつコントロールしたり、どうしたら美味しいみかんが出来るようになるか考えたりするうちに栽培が面白くなってきました。そうなるのと日々の農作業

のモチベーションも高まってきました。また、私の栽培の特徴として除草剤を使用せず、農薬も出来る限り使用回数を抑え栽培する為、工夫すべきところが満載で、思いを巡らし発想する事が楽しくなりました。経営については母から教わりながら悪戦苦闘していますが、父が生協や食品宅配会社、自然食品向け卸などに販路を広げ、信頼される様な付き合いをしていたお蔭で、私が商談に行っても受注が落ちることなく、逆にこちらから様々な企画提案ができ、経営リスクの分散となっています。両親の跡を継いで両親の築き上げた信頼と実績にはじめて気づき、感謝してもしつくせぬ思いです。

現在、仕事全般はまだ両親のやり方を踏襲していますが、近年、農薬取締法、食品衛生法の規制強化や食の問題などにより農業の現場も目まぐるしく状況が変わっています。そこで、取引先の生協の誘いにより日本生協連合会で協議、策定されている農業適正規範の考えに基づく青果物品質保証システムという生産、出荷、品質等について点検・管理する手法に取り組みはじめ、少しずつ改善しています。私や契約農家の生産現場にこの手法を落とし込むのはとても難しいですが、この様なことが取引先、その先の消費者との信頼醸成に繋がると思い取り組んでいます。私は、この管理体制の充実と美味しいみかん作りの為の技術向上に努め、足腰の強い経営基盤を作り、そこから更に飛躍したいと思っています。

紆余曲折あり、私が卒業当初思っていたような人生とは違った道を今、歩んでいます。地域に根ざし、家族と暮らし、そして親の偉大さを知り、木を20年、30年と世話して収穫する喜びを感じるこの暮らしも悪くないと最近思うようになりました。



第10回東京農業大学パンアメリカ校友会 —ブエノス・アイレス大会開催のお知らせ—

大会開催日：2010年9月10日（金）、11日（土）、
12日（日）

開催地：アルゼンチン共和国
ブエノス・アイレス市

パンアメリカ校友会はアメリカ大陸在住校友主催の国際大会で、毎回母校と校友会の代表者や在日校友とその家族など多数が参加しています。

2008年は、カナダのバンクーバーに、在加校友をはじめ米国・メキシコ・パナマ・ブラジル・パラグアイ・アルゼンチン・日本から約120名が参加しました。

2010年のブエノスアイレス大会開催に当たり、加賀見 真務校友会アルゼンチン支部長からのメッセージが届いておりますので、ご紹介します。

拓友会員の皆様へ

東京農業大学校友会アルゼンチン支部
支部長 加賀見 真務（拓殖11期）
幹事 村藤 修（拓殖20期）

この度、2010年（平成22年）に開催の決まりました「第10回東京農業大学校友会パンアメリカ・ブエノスアイレス大会」についてお知らせします。

本大会は、国内外に在住する農大校友が一同に集い、校友の親睦、連帯強化を通じて大学との関係推進を図り、現役学生の国際人養成プログラムにも協力しようと、1998年に当地ブエノスアイレスで産声をあげました。その後、ブラジル（サンパウロ）、パラグアイ、メキシコ、アメリカ（ロサンゼルス）、カナダ（トロント）、ブラジル（ベレン）、アメリカ

（サンフランシスコ）、カナダ（バンクーバー）へと引き継がれて、再びブエノスアイレスで開催される事になりました。

2010年は、拓友会会員である農業拓殖学科卒業生のブラジル移住50年記念の年でもありますので、とくに拓友会会員の皆様の多数のご参加をお待ちしています。

詳細スケジュールや日本からの参加者の募集等につきましては、拓友会事務局にお問い合わせください。その他のお問い合わせと旅行申し込みは下記へ。

（株）アルファインテル南米交流

〒105-0004 東京都港区新橋 3-8-6 大新ビル6階

TEL 03-5473-0541 FAX 03-5473-0540

代表取締役社長 佐藤 貞茂（拓15期）

担当 小野（E-mail : info@alfainter.co.jp）

東京農業大学農友会・探検部 50周年記念事業の案内

農大探検部は昭和36年（1961年）4月に研究会としてスタートし、同年に農友会・探検部となり平成22年には50周年を迎えることになりました。これもひとえには180余名のOB・OGの暖かいご支援ならびに大学内外の関係者皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

つきましては、創部50周年の歩みを振り返り、将来に向けての発展を期すべく、記念事業を計画しました。事業内容は、①記念パーティ、②展示会、③50周年記念誌の出版、④パネルディスカッションなどです。記念パーティと展示会の日時・場所は下記の通りです。

記

1. 記念パーティ

（1）開催日：平成22年（2010年）3月27日（土）
午後5時より

（2）開催場所：東京農業大学
「食と農」の博物館

2. 展示会

（1）展示期間：平成22年3月25日（木）より
5月9日（日）

（2）展示場所：東京農業大学
「食と農」の博物館1階

（3）展示内容：探検部活動50年の歩みと記録



2008年11月探検部親睦会にて

国際農業開発学科の動静

2008年度の本学科（高橋久光学科長、志和地弘信主事）の動静は以下の通りである。

2008年 3月	20日 2007年度卒業式（卒業者177名）	10月	9日～10日 世界学生サミット 「次世代への持続的農業の推進」
	31日 大田 克洋 教授が退職		8日～14日 農業開発実習 （第3班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生43名、引率：堀内 久太郎 教授）
4月	1日 岩本 純明 教授・高根 務 教授が着任		31日～11月4日 収穫祭（4日は体育祭）
	6日 入学式（入学者175名：男113名、女62名）		11月
5月	14日～20日 農業開発実習 （第1班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生35名、引率：足達 太郎 講師）		3日 拓友会第49期総会、懇親会
	22日～28日 農業開発実習 （第2班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生45名、引率：三簾 久夫 准教授）		20日～12月14日 後期カレッジ講座 「沖縄県宮古島の自然・文化と農業体験（秋編）」
	15日～6月1日 前期カレッジ講座 「沖縄県宮古島の自然・文化と農業体験（春編）」		20日 地域後継者推薦入試、卒業生子弟入試
	31日 高校生向けワークショップ 「第2回 話そう、試そう－開発学科デー」		21日 推薦入試、社会人入試
6月	7日 教育懇談会	12月	7日 併設高校優先入試、運動選手推薦入試、 技術練習生優先入試
7月	19日～20日 地方教育懇談会		26日～1月7日 冬季休業
	24日～30日 前学期定期試験	2009年	8日 後期授業再開
	31日～9月18日 夏季休業		1月
8月	2日～3日 キャンパス見学会		17日～18日 大学入試センター試験利用入試
9月	8日～12日 農業総合実習 （1年生、厚木総合農場にて）	2月	28日～2月3日 後学期定期試験
	17日 編入学試験		30日 卒業論文提出締め切り
	19日～25日 前学期追再試験および成績相談		4日～10日 農業開発実習 （第4班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生42名、引率：中曽根 勝重 助教・ 入江 満美 講師）
	26日 後学期事前ガイダンス	3月	13日 優秀卒業論文発表会
	27日 高校生向けワークショップ 「第3回 話そう、試そう－開発学科デー」		23日～27日 後学期成績相談および追再試験
	29日 後学期授業開始		20日 卒業式
			31日 鈴木 俊 教授・藤巻 宏 嘱託教授・ 岩堀 修一 嘱託教授が退職

TA [株] 東京アグリビジネス

TOKYO AGRIBUSINESS CO., LTD.
緑地防除管理・請負メンテナンス・資材販売

代表取締役会長 **大橋 邦雄**
（昭和49年 林学科卒業）

代表取締役社長 **野瀬 忠**
（農業拓殖学科18期）

常務取締役 **高田 久雄**
（農業拓殖学科18期）

〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 2-7-7

TEL 042(744)6237
FAX 042(744)6295

農学機械・科学機器・生物環境機器・農業資材

有限会社 **オオサカ**

〒352-0033 埼玉県新座市石神1-8-5

TEL 042-474-2402

FAX 042-474-2440

大阪宗太郎（昭和43年農学科卒業、拓友会特別会員）

大阪 宗仁（平成9年国際農業開発学科卒業）

農大で遇した40余年

東京農業大学名誉教授 鈴木 俊

農大に入学した年、1人用賀の下宿で立てた人生計画は、75歳の寿命と農業開発を夢見るものだった。昭和37年の春のことだった。

杉野先生のおられる政策研にお世話になり、4年の時には休学して派米実習を経験した。卒業を控えた11月頃、小野先生のお世話でそのまま政策研に残ることとなった。2年後、小野先生が経営研に行かれ、津川先生が政策研に来られた。学科はまさに創設期から発展・充実のための準備期にさしかかりベテランの先生方はもちろん若手の我々も厳しさと忙しさが続いた。学期が始まる4月から、他学科に先駆けて実施されていた富士農場での学外オリエンテーション、6月の父兄会の準備・設営、前期試験監督、夏季休暇中の研究室合宿・調査、厚木農場での開発実習の合宿や、派米実習試験と候補生の合宿引率、収穫祭でのレンコン売り、そして年度末の入試事務手伝い等々思い起こすとかなり濃厚で多忙な日々だった。これらの仕事が助手の仕事と思っていたら、他学科の若手の先生から、研究の重要性を指摘された。まったく同感だった。しかし何か腑に落ちない空しさが残った。勉強を心がけた。途上国の農業関係基礎数字など整備されてない時代だった。もちろん海外調査など「夢のまた夢」だった。

先生方にも大変お世話になった。ご存命の先生方は未だに「叱られそうで怖い」ので、ここでは旅立たれた先生方お二人について記す。

杉野先生には学生時代に教えを頂いたが、こちらの受け皿が未熟だったため、未だにもったいないことをしたと思っている。非常にインスパイアフルで何事も可能にしてしまう説得力を持っておられた。教えの背景には計り知れない学問的知識と思索ばかりでなく、青年時代の思想的動揺と左右への振幅、満蒙開拓時代の経験等裏づけがあった。派米実習中オレゴンで先生のご逝去を知った。バーンの片隅で一人泣いた。先生は『海外拓殖の理論と教育』を残してくださった。僅かに101頁の本だが、行間に籠められた内容はそれこそ数100頁に値する。とくにその根底を流れる人類愛を基調とする思想的背景は開発学科の礎・指針として、これからも「汲めども尽きぬ大いなる精神的財産」と考えてよく、未だにこの本を超えるものは出版されていない。

自然科学分野では栗田先生がおられた。先生の研究室は熱帯殖産研究室（当時）だったが、若手教育にはとくに熱心で何かと声をかけていただいた。先生は専門以外のあらゆるものに造詣が深く何時も何かを学ぶことが出来た。矢張り「本の虫」だったに

違いない。そればかりか多くの話は実践経験に立脚するもので、説得力があり魅力的だった。先生はあらゆることに極めて高い能力をお持ちの方で、先生と京都出張の折、宿泊先の床の間に掛けてあった「滝」の絵をみて、「ウーン、この絵には音がある」といわれた。感受性に驚嘆した。講師昇格のおり、お祝いに「アザミの絵」を描いていただいた。数週間後、蕾と花とその葉陰に鋭い棘を描いた色紙をいただいた。ほのぼのと花の香がした。先生はまた、ネパールにラブティ実験指導農場を開設され、これらを通じて多くの実践者、開発協力専門家を育成された。時の皇太子ビレンドラ殿下が来日の折、農業開発の御進講もされた。1人陪席を許された。農民に対する暖かい配慮と農業開発の重要性と具体的課題・解決策が講義の中心だった。優しさと厳しさを兼ね備えた名教授だった。先生は『Vegetables in Nepal』を残された。英文での出版は途上国特にネパール農業関係者の利用を配慮されたためだと思う。実践者としての優しさに頭が下った。なお、この本の内容は、先生がネパールで活動中に収集された資料を中心に、同国の地勢と気候、土壌、地域別蔬菜栽培状況、タライにおける蔬菜栽培、日本蔬菜の同国への導入の可能性と評価等について纏めたもので、同国に関する文献の少ない当時としては大変価値あるものだった。（紙幅の都合でお世話になった先生方の思い出はここまでにする）

さて、この3月末をもって退職を迎えた。入学以来実に47年も学ばせていただいた。素晴らしい先生方と出会い、素晴らしい学生と出会い、多くの経験をさせていただいた。『蝸牛のゆめ－農大で過ごした40余年－』にも記したとおり、在職期間を振り返ると、周囲や行く先々で、よき師、よき友人に恵まれ大変楽しく過ごさせていただいた。意義あるものを信じ、何不自由なく歩ませていただいた教育・研究生活を振り返ると、満足感に満ち溢れる楽しく幸せな、アッという間の時の経過だった。農大と関係者の皆様に心から感謝し、末永い繁栄を祈る次第である。そしてまた、学窓を巣立っていった卒業生の皆さんに感謝すると共に、大いなる活躍を心から祈る次第である。



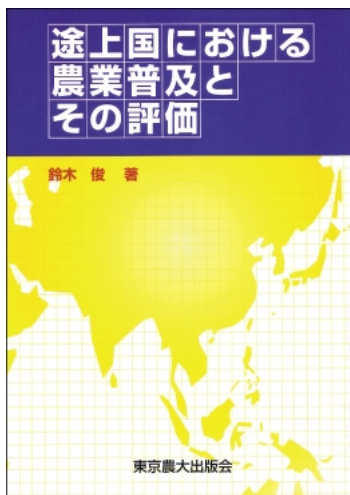
昇格お祝に栗田先生に描いて頂いた「アザミの絵」

開発学科教員の著書紹介

『途上国における農業普及とその評価』

東京農大出版会

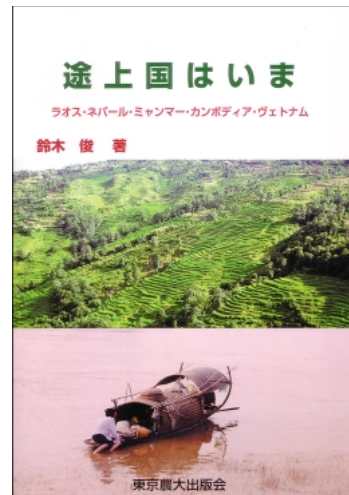
鈴木俊先生（現東京農業大学名誉教授）は、途上国の農業技術移転・普及の効率的なシステムの研究に、約半世紀にわたり取り組まれてきた。途上国の農業普及システムとして、その国独自の実効性・有効性のある普及システムの構築を希求し、本書では、ヴェトナム、ネパール、タイの農村調査をもとに、途上国の普及システムを評価する独自の方法「農業普及システム評価表（ST型）」について考案・検討している。前段の各国の農業普及システムの現状が記載された部分とともに、農村開発従事者には必見の書である。
（2008年11月出版：1600円＋税）
ISBN：978-4-88694-207-4



『途上国はいま』

東京農大出版会

本書の冒頭で、出版の意図について次のように記されている。「同じ世代を共有する途上国の人々についてもっと知る必要があるのではないか」「地球上の総耕地面積15億～16億ヘクタールは環境破壊などにより減少こそすれ、増えはしないことを知ってほしい」。対象とする読者は、一般社会人や農学を志す学生ばかりでなく高校生などの初学者にも学べるように、途上国の農村の実情について写真を中心にわかり易く綴られている。筆者のレンズは、ラオス・ネパール・ミャンマー・カンボディア・ヴェトナムの農村の人々の営みを尊厳をもって捉えている。次世代の途上国の農村開発を担う若者に向けた応援本でもある。（2009年4月出版：1800円＋税）
ISBN：978-4-88694-211-1



加藤耕房グループ関連法人各社

HPでTK加藤ビル各マンション、弊社案内、ニュージラントBMW/バイクツーリングなどの映像をご覧いただけます

加藤耕房有限会社 代表取締役（拓殖30期）加藤 耕 誠 取締役（拓殖31期）加藤 深 雪
有限会社 テラ・アクア総合研究センター 代表取締役 加藤 深 雪 CEO 加藤 耕 誠
早稲田教育ゼミナール テラアクア校/テラガイ校 判子屋鳩ヶ谷店 はんこや耕房安行店 判子屋オンラインショップ
ビューティー・ジュエリィ ltd. ネイル&アرایش・女性のためのオールラウンド サポート 恵比寿/南鳩ヶ谷
医療法人 山崎勇誠会 整形外科・リハビリ・柔道整復・アンチエイジング 理事 加藤 耕 誠
株式会社 田村工務店 木造・ALC・RC・SRC～伝統的の日本家屋改修工事まで 顧問 加藤 耕 誠

1世紀のときを越えて僕らは出会っていた **T-Time** 日本T型フォード研究会(本部NZ) オナー・兼日本支部長 加藤 耕 誠
 なんとNZで走っていた国の宝といふべき貴重な1917年式、1926年式のT型フォード2台と1946年式MG-TC型を現地から譲り受けました
 プライダルやイベントのディスプレイにレンタル致します（自走もできるよう整備していますが特殊な技能が必要のため私有地内を専門スタッフが運転します）
判子屋オンラインショップ // www.41858.com 総務CEO室・印章工房 埼玉県鳩ヶ谷市南4-17-5 TK加藤ビル2F 2F
 （加藤耕房本社内） Phone. 048(282)8152(代) FAX 048(280)3858

資産活用・建築デザイン・設計・監理
 不動産売買・仲介・住宅管理・リフォーム <http://www.e21038.jp>

UNI-HEARBEST Inc. 賃貸のコンシェルジュ
 宅地建物取引業許可番号 埼玉県知事(1)第20791号
ユニ・ハーベスト株式会社 一級建築士デザイン事務所
 一級建築士事務所登録番号 (1)第9686号
 代表取締役/デザイナー（拓殖30期）加藤 耕 誠
 執行役員（拓殖31期）加藤 深 雪
 倉大聖大邸、ドックラン、ピアノ/風、大型バス4L、(管理P、秘モダン、建築付ワジ)等盛り出した全商住宅
 カンセアリング (1)・センター・ブリスから (1)・deep・ヒット・ドレーラー・ヴェルファイア等も用意
都心に奇跡のライフスタイル空間!
TK加藤ビルシリーズのリーメント感マンションが
話題の南鳩ヶ谷に300世帯目指して展開中
土地の生産価値を高めます。大家幸せドットコム
ニュージラントからの映像も満載⇒008-48.com
 本 部 埼玉県鳩ヶ谷市南4-26-1ペンタ・エマールビル 2F 2F
 〒334-0013 Phone. 048(288)0848(代) FAX 048(288)0868



株式会社 ムラカミ シード
MURAKAMI SEED CO.,LTD

本 社

〒309-1738 茨城県笠間市大田町341
TEL 0296-77-0354 (代) FAX 0296-77-1295
<http://www.murakami-seed.com>

ムラカミシード水戸研究農場

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵九ノ割5986
TEL 029-259-6332 (代) FAX 029-259-6226

代表取締役会長 村上典男(拓殖23期)

ガーデンショップ花みどり本店

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵九ノ割5986
TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

村上 登(拓殖26期)

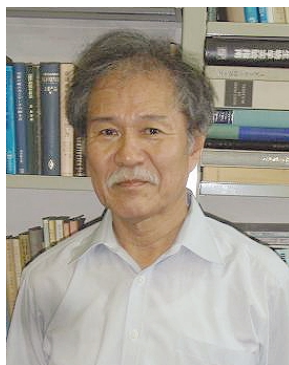
村上忠義(拓殖29期)

新任教員紹介

教授 池田 良一（いけだ りょういち）

はじめまして

今年4月から、国際食料情報学部国際農業開発学科熱帯作物研究室でお世話になっております。教育現場での仕事は初めての経験であり、もとより前任の藤巻宏先生のようには望めませんが、私自身は日々新たな気持ちで楽しく農大での生活を送っております。未経験の分野のせいでしょうか、少し大袈裟に申しますと、大学では毎日何かしら新しい発見があります。



専門は稲の育種です。農事試験場（鴻巣）、東北農業試験場（大曲）、国際稲研究所（IRRI、フィリピン）、農業研究センター（つくば）において、主に稲の耐虫性・耐病性の遺伝育種の研究や、寒冷地南部向き水稻品種やハイブリッド・ライスの育成に従事しました。このように21年間研究活動した後、研究企画科長（農研セ）、国際研究調整官（JIRCAS*）、研究部長（作物研とJIRCAS）など、9年間は研究支援部門の仕事をしました。

2005年4月から2年半はJIRCASに席を置いたまま、またそれに続けて退職後1年半の今年3月末まで4年間、JICAの派遣専門家として、WARDA**で陸稲品種ネリカ（NERICA）の種子増殖に従事しました。近年、NERICAの名が広く知られるようになり、アフリカ各国からNERICA品種の種子要求が強まりましたが、当時のWARDAではその要求に十分対応できなかったもので、JICAに支援が求められ、回り回って私が行くことになったのです。

通常、種子の生産過程には、育種家種子、原原種子、原種種子および保証種子の4つの段階があります。最後の保証種子が、稲作農家に配布され、栽培されます。WARDAで、アフリカ全体の稲作農家に配布するNERICA品種の保証種子をすべて生産することは不可能ですから、種子生産業務を各国と分担する必要がありました。そこで、WARDAに着任以来、「我々はNERICA品種の原原種種子を責任をもって生産するので、各国はその後の原種種子や保証種子を責任をもって生産して欲しい。」と提案してきました。WARDAと各国が、NERICA品種の種子生産について役割分担を明確にすべきと考えたからです。こうして、WARDAにおいてNERICA品種の原原種種子生産に従事する傍ら、NERICA品種の遺伝

特性について解析するとともに、種子増殖に関する人材育成にも関わってきました。この仕事は、まだ緒に就いたばかりで、それを定着させることこそ大事だと考えております。幸い、私の後任者が、現地において種子増殖の仕事を継続していますので、アフリカの各国においても種子増殖の体制が早晚確立されるものと期待しております。

農大の熱帯作物学研究室では、研究対象のヤムイモについては教わりつつ、イネも含め、同僚の先生方や、院生・学生諸君と一緒に、教育・研究に励みたいと考えております。4か月経ってなお新鮮に感じる、大学に対するこの気持ちを忘れず、楽しくやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

*JIRCAS

Japan International Research Center for
Agricultural Sciences

独立行政法人 国際農林水産業研究センター

**WARDA

the West Africa Rice Development
Association

西アフリカ稲開発協会

助教 真田 篤史（さなだ あつし）

今年度の4月から、国際食料情報学部国際農業開発学科の助教として着任致しました。現在は熱帯園芸学研究室に在籍して、園芸作物の増殖に関する研究を中心に活動しています。

私は、高校を卒業後、東京農業大学農学部（現・国際食料情報学部）国際農業開発学科に進学したのですが、そのきっかけはとても安易なものでした。大学受



験を控えた高校三年生の私は、農業の勉強ができる大学へ進学し、「いもの研究をするんだ！ いもをたくさん作って世界の食糧問題克服に貢献するんだ！」と考えていました。農業と言えば東京農業大学が真っ先に思い浮かびましたし、下宿生活を経験したいという思いが強く、高校卒業後の18歳の春に愛知県から東京都へと上京してまいりました。「いも」といえばジャガイモ、サツマイモ、サトイモくらいしか知らない私でしたが、農大入学後にヤムイモと出会

い、近年までヤムイモの増殖や育種に関する研究を行ってきました。現在は、園芸作物の増殖に関する研究、パッションフルーツやランなどの組織培養技術を利用した増殖に関する研究を行っています。

高校生の時まで全く農業との関わりがなく農業体験の乏しかった私は、大学でのヤムイモ栽培のほかにも、できるだけ多く農業実習を行うように心がけました。主に野菜農家での農業実習が多かったのですが、一番思い出に残ったのは、言葉もわからないまま渡航した台湾での農業実習でした。なんとか筆談でコミュニケーションをとったのですが、最初の1週間は日本に帰りたい気持ちでいっぱいでした。でも、農場の人々の優しさと励ましに支えられ、なんとか1ヶ月間の農業実習を終える頃には、いつのまにか台湾のことが大好きになっていました。台湾の市場には一年中様々なおいしい果物が並んでおり、既に日本にも出荷されているバナナやマンゴーなどの他にも、魅力的な果物を日本のみなさんに紹介す

ることが現在の私の目標のひとつにもなっています。

また、現在はエチオピアでの食料増産に関する活動にも関わっています。エチオピアは、雨季が短く、降水量が少ないうえに、雨の降り方が不安定なため、短期間で収穫でき、粗放的な栽培が可能なテフと呼ばれる雑穀が広く栽培され、主食であるインジェラ（発酵したクレープのようなもの）の原料となっています。しかし、その収穫量は1haあたり1t未満と非常に低いため、テフよりも収量の高い作物の導入や、テフの収量をあげるための栽培方法の提案を行っています。その他、野菜の節水栽培の試験も行っています。

私は、東京農業大学に既に15年間お世話になっています。最近までは学生でしたが、今年からは教員としてできる限り大学、国際農業開発学科に恩返しをしていきたいと思っています。そして、これからも先生方、学生の皆さんと一緒にもっと勉強していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

拓 友 会 賞

『中山間地域における炭素循環の経年変化について —福島県東白川郡鮫川村を事例として (昭和30年、昭和50年、平成17年)—』

農業環境科学研究室 佐々木 加奈
指導教員 牛久保 明邦

現在、枯渇が予測される石油等の海外の化石燃料に依存したことによる、地球温暖化等の環境問題が深刻化し、いかにして化石燃料の消費を減らすかが世界的な課題となっている。この対策として、わが国では、バイオマス・ニッポン総合戦略（平成14年12月閣議決定）においては中山間地域のバイオマスの利活用を、京都議定書目標達成計画（平成17年発効）においては、中山間地域の森林による二酸化炭素の吸収が期待されている。しかし、中山間地域は、バイオマスが豊富に存在しているにもかかわらず、過疎化や高齢化に伴い労働力が不足し農林業が衰退する一方、多頭飼育による養豚などの畜産業の参入が盛んとなり、食料や化石燃料の海外からの輸入の増加に加えて地域外からの飼料・敷料の移入も増加する傾向にあり、地域循環型社会から非循環型社会へと変化しつつある。

佐々木さんの卒業論文は、中山間地域に指定されている福島県東白川郡鮫川村をモデルとして産業の炭素収支に着目し炭素フローを作成し、その経年変化について検討したものである。炭素フローは人間関連・家畜関連・森林関連・農地関連の4つのコンパートメントから構成されている。特に、村内での

顕著な変化は、人間関連・家畜関連・森林関連であった。人間関連では、化石エネルギー使用による炭素発生量が顕著で、昭和30年は0.07 tC/人であったのに対し、昭和50年は0.18 tC/人、平成17年には0.46tC/人と約6.5倍に増加した。次に家畜関連では、家畜の飼養頭数増加（養豚2万頭（平成17年））に伴い、炭素量は増加傾向にあるがその最大の要因は、村外からの飼料の購入による炭素の大量移入である。一方、家畜頭数の増加に伴い、炭素の増加が予想されたふん尿中の炭素量は、それほど増加を示さず、これは飼育家畜の畜種の変化がもたらしたものと考えられる。また、森林関連では、昭和30年前後までは盛んに伐採や植林などの管理が行われていたため、樹木の生長とともに炭素貯留量も増加したが、現在はそれら樹木が40林齢となり年間炭素吸収量が減少傾向にある。鮫川村での炭素収支は、地域循環型から石油依存型社会へと変化することにより、化石燃料の消費に伴う炭素排出量が増加し、盛んになった畜産業により飼料の大量移入に伴う炭素の大量排出が起こっていることが明らかになった。これに対し、かつて盛んにおこなわれていた林業は衰退傾向にあり、今後ますます森林の炭素吸収量が低下することが懸念されるため、全体の炭素収支がアンバランスになることが予想され、炭素の吸収媒体である林業の活性化がその行方を左右するとしている。

産業構造の変化による炭素フローの変化は、わが国の中山間地域が抱える共通問題である。これらの変遷を把握し、低炭素社会の実現に結びつける上で、また今後、発展途上国においても同様の変化が起こ

りうるであろうと予想されることから、今回の研究成果は、問題を認識し、解決するヒントを与えるものと考ええる。

本論文での炭素フローの作成は、中山間地域のバイオマスの賦存量の算出と炭素量の推計からなっており、数値の妥当性を検討するため実測の他、村史を参考に村民に聞き取り調査を行うなど村民とのコミュニケーションも積極的に行い、村役場や農家の人の協力と信頼を得て実現したものであり、データ収集に膨大な時間を要している。この研究成果はバイオマスタウンの指定を受けている鮫川村において2月19日に村民を対象として発表し、役場や村民に研究成果の還元を行った。本論文は、中山間地域における低炭素社会の実現に役立つ極めて実践的研究であり、優秀論文に値すると認め、ここに推薦致します。

受賞者の言葉

農業環境科学研究室 佐々木 加奈

私は、平成21年3月に国際農業開発学科を卒業しました。

卒業論文は、中山間地域における炭素循環の経年変化について研究しました。中山間地域は、人口の過疎・高齢化に伴い労働力が不足し、林業が衰退傾向にあります。また、日本の食料供給の重要な役割を果たすはずの中山間地域における農業も同様に衰退しつつあります。一方で、近年は養豚企業の参入が盛んに行われ、地域外からの飼料・敷料の移入、それとともに食料や化石燃料の海外からの輸入が増加し、地域循環型社会から石油依存型社会へと変化したといえます。

この社会変化による物質循環の変化に関する研究は少なく、社会が与えた物質循環への影響は不透明です。今後バイオマスの利活用を進めていく上でより良い具体案を検討・提案するためにも、これらの変化の過程を地域レベルで知ることは重要といえます。

そこでバイオマスや温室効果ガスの主成分である

炭素を指標として、林業が盛んであった戦後から現在までの炭素循環の経年変化を調査しました。

調査は、実測と推計で行い、膨大な資料と数字に向き合う日々でした。各年代の様々な資料を探すと同時に、ライフスタイル・食生活・産業など様々な方面から、時代の流れとともに、どのように人間の生活が変化してきたのかを把握しなくては炭素の流れもつかめませんでした。また調査対象が炭素循環という目に見えない元素の流れのため、人間生活のどこに炭素が含まれているのか把握するのは難しく、何度もつまづきかけました。

しかし、大勢の人に支えられ、自分の納得できる卒業論文を書き上げることができ、さらには拓友会賞という名誉な賞を受賞することができました。途中で投げ出さず、最後までやり通して良かったと思える結果になりました。ご助力いただいた方々には本当に感謝しています。

現在は、独立行政法人農畜産業振興機構という会社で働いています。ここでは、日本の農畜産物を安定的に供給するため、様々な補助事業や情報の収集提供を行っています。主に、畜産・野菜そして特産に関する事業です。補助事業といっても、普段生活の中では耳にすることはないと思いますが、私たちの生活に関わりのある事業がほとんどです。例えば、学校の給食で支給されている牛乳は、学校での牛乳の普及や消費の拡大を目的に補助金が交付されています。他にも、野菜の価格が著しく低落した場合に、生産者に補助金を交付し、野菜農家の経営に及ぼす



ふれあいの旅を演出する 観光庁長官登録旅行業 第1835号

株式会社アルファインテル南米交流

代表取締役：佐藤 貞茂（拓殖15期）



〒105-0004 東京都港区新橋3-8-6 大新ビル6階

TEL: 03-5473-0541 FAX: 03-5473-0540

email: info@alfainter.co.jp url: http://www.alfainter.co.jp

影響を緩和するための事業など様々あります。

私の仕事は、このような事業を担当している社員の方々のサポートをしたり、業務が規程通り行われているか把握したりすることです。各課の人々とその業務内容を把握し、働きやすい環境を整備したり、社内だけではなく外部の対応もあります。

『気温、光強度、かん水、施肥が多肉植物及びサボテンの生育に及ぼす影響』

熱帯作物学研究室 高沢 英子
指導教官 志和地 弘信
井上 知昭

サボテンおよび多肉植物は乾燥地帯等に自生し、その形態的特徴から観賞価値も高く、安定した生産・需要が見込まれている。しかし、生産および観賞性を高める研究は少ない。本研究は、多肉植物の観賞性を高める多肉植物の紅葉現象並びに早期から生産・観賞性を高めるために多肉およびサボテンの草姿・肥大成長について明らかにしたものである。



多肉植物クラスラ属‘火祭り’の紅葉現象について、夜温と遮光との関係は、低温（5℃）と強光（自然光）で葉のa値が高く、赤みを帯び、高温（15℃）と遮光ではa値が低く、SPAD値が高く、緑色を呈した。施肥（N濃度0～150ppm）は、低温（5℃）でN濃度が低いほどa値が高く、紅葉が顕著となり、高温（15℃）でN濃度が高いほどa値が低く、緑色となった。低温（5℃）遭遇期間と紅葉との関係を見ると、2週以上の低温で紅葉が認められ、10週まで低温遭遇時間が長いほど紅葉が鮮明となった。次に手かん水（間断）と底面給水（常時給水）について検討したが、著しい相違は認められなかった。また、どの実験も葉のa値が高く、紅葉が鮮明な葉ではBrix値も高かった。

以上の結果、紅葉は低温（5℃）の影響が大きく、さらに強光（自然光）で培地のN濃度が低いと鮮明になり、葉のBrix値も高いことが明らかになった。

サボテンのライジンカク、センニンカク、マグニフィカス、タマオキナ、キョシュウギョクおよび多肉植物のジントウを用い、気温、光強度、かん水、施肥と生育との関係を調べた。生体重・茎径・株幅・SPAD値は強光（自然光）で大きく、施肥（N150ppm）の効果が認められた。これに対して、

大学で学んだこととは全く違う世界ですが、同じ農業分野には変わりなく、大学時代とは違う方面からでも農業にかかわり、貢献できることを嬉しく思います。卒業論文を作成した時とは、全く違う環境ですが、同じように満足のいく仕事をしていければと思います。

弱光（8.1～67.4 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{sec}$ ）では施肥の効果は小さかった。また、底面（常時給水）に比べて手かん水（間断）の生育が優れた。これらのことから、種の形態的特徴を維持しながら、生育を促進させるには自然光下で手かん水（間断給水）によるN濃度150ppm程度の栽培が良いと推察された。

この研究成果は生産現場にフィードバックできる実学的なものであり、農家にとって大切な知見になるものと考えられ、優秀論文にふさわしいものである。さらに、成果は平成20年9月に農業生産技術管理学会で口頭発表し、平成21年3月に日本熱帯農業学会で発表された。

受賞者の言葉

拓友会賞を受賞して 高沢 英子

はじめに

拓友会賞を受賞させていただきましたこと、最初から最後までご指導いただきました先生方、実験を手伝っていただいた学生の方々に心より感謝申し上げます。好きなサボテンについて研究でき、多くの方の協力をいただいた結果、到底一人では成し得ることのできない拓友会賞を受賞できたことは、学生時代の最高の思い出として心の中に残っております。本当にありがとうございました。

東京農業大学を卒業し、現在、私はマスコミ関係の仕事に就き、アシスタントディレクター（通称AD）としてがんばっています。ADと申しますとカンペを出したり、買出しにいったりと雑用係のような、一見、大学で学んできたこととはまったく関係のないような職業ではありますが、何かの縁がありまして「食彩の王国」という番組を担当することができました。この番組は、毎週ひとつの食材を取り上げ、定番家庭料理から割烹・フレンチ・日本料亭料理といった様々な料理とともに、食材の生産現状や日本人の歴史を伝えています。この数ヶ月でワカメ・わらび・トマト・高原レタス・かんぴょうなど、いろいろな食材について取り組んでまいりました。ロケで農家さんを取材に行き、農業の話をする時に農大で学んできたことが役立っています。また、農大出身という親近感をもって下さることが多く、

うれしい限りです。そしてなにより、普段スーパーやコンビニなどで簡単に食べ物が手に入るこの時代、食べ物のルーツを知り、大切さを自分自身が知ることが、この仕事をしている楽しみとなっています。

まだ、仕事は覚えただけで注意を受け、右往左往しながらやっていますが、楽しく、間違っていない、よい情報を皆様にお伝えできるよう、がんばっていかうと思っております。

最後に、関東ローカルではございますが、テレビ朝日「食彩の王国」毎週土曜日、朝10:55～ぜひ一度ご覧ください。また、なにかご縁がありまして、取材に伺わせて頂くことがございましたらそのときはよろしくお願いいたします。



松原健太が優勝！関東インカレ5000m

2009年5月24日、関東学生陸上競技対校選手権大会の2部5000mにおいて、本学科2年生の松原健太が14分06秒27のタイムで優勝した。本学選手のインカレ長距離種目の優勝は24年ぶりであった。

同種目には、本学からエース外丸和輝（開発4年）、田村英晃（工学3年）そして松原の3選手が出場した。レースは、序盤から中盤まで外丸がハイペースで牽引すると、残り1000mから田村がロングスパート。さらに、残り200mから松原が優勝をさらう切れ味抜群のラストスパートでレースを締め、3選手がそれぞれ見せ場を作り、まさに農大勢がレースを支配した。松原は、今年に入り外丸が持っていた5000mやハーフマラソンの農大記録を次々と更新。それでも「エースは外丸さん」と言うように、絶対的なエースの外丸から多くのことを吸収し、更なる活躍が期待される。



快走を見せた松原



レースで光る農大生の走り

* 2年連続19回目の伊勢路へ

今年も全日本大学駅伝出場が決定致しました。11月1日に名古屋（熱田神宮）～三重（伊勢神宮）間で行われます。ご支援ご声援のほど宜しくお願いいたします。

**映像は伝えたい情報をダイレクトに伝える
重要なコミュニケーションツールです。**

シーンプランニング21では、企業VP、商品プロモーション用映像、イベント展示会用映像、社内研修用映像など、お客様の業種や必要とされている映像の内容に合わせて、経験豊富でさまざまな専門知識と技術を持ったディレクター陣が、企画のご提案から撮影、編集まで実施いたします。

ハイクオリティでコストパフォーマンスに優れた各種映像を制作いたします。

ただいま、東京農業大学 学科紹介DVD制作中！

- 映像撮影・DVD等の企画・制作
- ホームページの企画・制作
- パンフレット、ポスター、チラシ、その他印刷物の企画制作
- イベント企画・運営（シンポジウム・フォーラム、展示会等）

**Scene
Planning21**

〒162-0801 東京都新宿区山吹町261番地トリオタワーセントラル4F
TEL: 03-5229-7055 FAX: 03-5637-7033

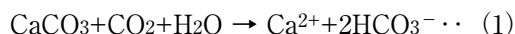
株式会社 シーンプランニング21
<http://www.s-p21.com>

宮古島での研究活動

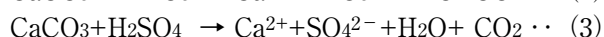
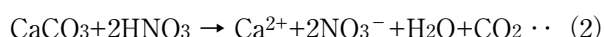
東京農業大学大学院（開発47期） 野村 渉平

私は、現在、総合研究所に所属する環境共生学専攻に在籍しており、宮古島にある東京農業大学宮古亜熱帯研修センターに滞在し、主として2つの研究を行っています。

1つ目は、宮古島における農業による石灰岩溶解の実態とその対策に関する研究を行っています。宮古島の表層地質は、多孔質で透水性に優れている琉球石灰岩が分布しています。その石灰岩は炭酸カルシウム（ CaCO_3 ）が主成分であるため、自然条件においては、石灰岩は次の（1）式により溶解することが知られています。ここで左辺の CO_2 は大気・土壤中における植物根や土壤微生物の呼吸に由来します。



したがって、この溶解反応は生物活動がより活発になる高温期の夏季に盛んになるのが通常で、その結果、地下水の Ca^{2+} 濃度も、夏季に高くなる傾向があります。ところが、サトウキビが基幹作物として栽培されている宮古島では、地下水の Ca^{2+} 濃度は、サトウキビへの施肥時期直後から上昇する傾向があります。このように農業による影響の強い地域では、石灰岩の溶解には、とりわけ肥料等が強く関与している可能性が高く、石灰岩の溶解は次の（2）（3）式のように進行すると推測されます。



この石灰岩の溶解は、石灰岩に固定されていた炭素が放出や地質地盤の崩壊による地盤沈下等を引き起こす原因となります。さらには結果的に引き起こ

される水道原水へのカルシウムの富化は、硬度低減といった処理を必要とすることになります。そこで、宮古島における農業による石灰岩溶解の実態解明することを目的に、サトウキビ圃場に肥料を施肥した時のサトウキビ栽培圃場から発生する CO_2 量と降雨が石灰岩層に到達する時の浸透液水質との関係を検証する研究等を行っています。

2つ目は、堆肥施用量の違いがサトウキビの生育と硝酸態窒素の動態に及ぼす影響について研究を行っています。沖縄県では、農地の有効利用・農作業の省力化・作物生産性の増大等を図るために、作土層厚の確保、土壤排水性の改良、スプリンクラーの整備等を内容とする農地基盤整備事業が行われてきており、その整備過程の最終段階で堆肥が施用されています。この堆肥施用により、圃場地力の回復・向上が期待されますが、過剰施用は宮古地域で生活用水全般に利用されている地下水を汚染する危険性も伴います。したがって、作物生産性を向上させ、かつ養分溶脱量を最少にする最適な堆肥施用量を策定する事を目的に、パンライシメータ法を用いサトウキビ圃場に施用された堆肥中の養分、特に窒素の動態を検証する研究を行っています。

以上が、私が宮古島で行っている研究ですが、近年は、先生方の尽力により、宮古島を研究対象とした修士論文や卒業論文を行う学生が長期間宮古島に滞在し、研究を行うことが可能となりました。このことによって、自らの目で宮古島を観察し、島の人們と話し、その中で、宮古島農業の課題を見つけ、独自の問題意識を持って、研究に励む学生が増えてきています。このような活動が、これからも続く事を期待すると同時に、現在行っている研究が宮古島農業の将来に寄与できるものとなるように今後とも研究に励む所存です。



サトウキビ圃場からの浸透液を採取するタンクの様子



畜産農家調査

東京農業大学 宮古島亜熱帯農場に衛星データ受信施設

NASA技術を初導入したネットワーク構築

東京農業大学と東京情報大学が2009年6月12日、宮古島市城辺の農大亜熱帯農場に主にアジア圏における雲の分布や陸の温度、海洋の植生状況などの情報を人工衛星から受信し、観測データを即時に表示するネットワーク構築に成功した。

情報大は、文部科学省の支援事業採択を受け2008年度から整備を進め、千葉県の情報大と農大のオホーツクキャンパス、宮古島市の農場の3か所に衛星データを受信するアンテナを設置。これにより北はロシア極東のベーリング海西部から南はフィリピン全域を含む南シナ海までの陸海上の環境変化を日中と夜間で計6回観測する。観測データは情報大に集約され即時にネット配信される。

同ネットワークでは、米航空宇宙局（NASA）が開発した同時伝送を世界で初めて技術移転され導入したものである。気象庁の観測頻度より劣るものの、解像度の高い雲の分布や陸海上の温度分布状況などをインターネット回線で受信しカラー画像で閲覧が可能。黄砂の分布や海中のプランクトン増殖状況も確認できることから今後、航空・海洋関連企業などへの活用が期待できるという。

沖縄タイムス 2009年(平成21年)6月13日 土曜日



ネットワーク構築について説明する東京情報大学の浅沼市男教授（右）と東京農業大学の宮古島市城辺・東農大農場（左）。

【宮古島】東京農業大学と東京情報大学は12日、宮古島市城辺の農大宮古島亜熱帯農場で記者会見し、主に東アジア圏における雲の分布や陸の温度、海洋の植生状況などの情報を人工衛星から受信し、観測データを即時に表示するネットワーク構築に成功したと発表した。

雲・温度データ即時配信

東農大 NASA技術を移転

8年度から整備を進め、千葉の情報大と農大の北海道的にあるキャンパス、宮古島市の農場の計3カ所に衛星情報を受信するアンテナを設置。北はロシア極東のベーリング海西部から南は

フィリピン全域を含む南シナ海までの陸海上の環境変化を日中と夜間で計6回観測する。観測データは情報大に集約され即時にネット配信される。

宮古新報 (日刊)

宮古、千葉、網走 人工衛星が結ぶ

東京情報大学



衛星データを受信するため屋上に設置されたパラボラアンテナ＝城辺農場、東農大宮古島亜熱帯農場

地上観測データ即時に

農大農場に受信施設

NASA技術を初導入

東京情報大学（千葉市）新勝利学長は12日、城辺農場の東農大宮古島亜熱帯農場で記者会見し、米国の衛星データを受信するアンテナが設置されたことを報告した。同学長は「このデータで環境変動に関する研究に役立つ他、航空機や船舶の運用、気象情報にも利用してほしい」と話した。

同大学は文部科学省の支援事業を受け、米国の地球観測衛星「TERRA」と「AQUA」のデータを直接受信し、東アジア沿岸域の環境や気候、社会面を様々な角度の研究に利用している。観測するパラボラアンテナを新勝利、早稲田農場の基礎生産力などが調べられ、陸地の環境は都市の拡大や農作物の生産、森林の減少など、そのためのNASA

環境研究や気象など活用

来館者累計間もなく80万人 東京農大「食と農」の博物館

世田谷通りを渡って馬事公苑側。先輩方には、進化研のあったところ、という方がわかりやすいかもしれない。この進化研跡地に立つのが、ユニークなデザイン（隈 研吾氏設計）と巨大なニワトリ像で目を引く東京農大「食と農」の博物館。現在、本学科の夏秋啓子教授が館長を務めている。「食と農」にかかわる様々な展示や企画に惹かれてリピーターも多く、2004年4月の開館以来、間もなく来館者数累計80万人となる。テレビなどマスコミの取材も増加中で、最近では国内の修学旅行生だけでなく韓国からの見学ツアーのお客様をお迎えするなど、知名度も高まっている。本年度、5月には本学科教員の研究力が発揮された展示「アフリカの食文化と農業～ふれてみようアフリカの食と農～」が人気を集め、秋からは、これも本学科教員の協力を得た「稲に聞く」の常設展示がはじまる。加えて10月からは「多摩川源流大学展」と「菊畑へようこそ」の2展示で、本学の教育と研究の成果を広く学外に発信することになっている。学術展示だけではない。流水の天使と呼ばれる「クリオネ」の泳ぐ姿が一年中観察でき、隣接する「バイオリウム（財団法人進化生物学研究所）」では、キツネザルの一種で親子の様子が可愛いワオレムール、シャンプーの木と呼ばれるウンカリナなど、珍しい動植物を見ることが出来る。



「食と農」の博物館正面

世田谷キャンパスにお越しの際には、世田谷通りを渡って、博物館にもぜひお立ち寄りいただくとともに、館内のカフェ「プチラディッシュ」で一息入れて頂きたい。また、「食と農」の博物館にふさわしい企画や展示のご提案や、館内に設置された商品と企業の活動を紹介するスペースの利用（校友専用、年間10万円）なども歓迎しているという。入場は無料。原則として日曜日や祝日も開館。休館日やイベント情報など、詳しくは「食と農」の博物館ホームページ（<http://www.nodai.ac.jp/syokutonou/index.html>）をご覧ください（食と農の博物館）で **検索**。



「食と農」の博物館でのセミナー



アフリカの食文化と農業での展示

東京都知事登録旅行業第3-5792号



キックス・エアー・チケット
株式会社 **キ ッ ク ス**

代表取締役 **塩 満 仁**

〒187-0003
東京都小平市花小金井南町2-17-2-603
Tel 042-458-1180 Fax 042-458-1180
携帯 090-1761-0970
E-mail: info@kixairticket.com

<http://www.kixairticket.com>



食 の 検 定[®]
<http://www.syokuken.jp>

「国際農業開発学科」の先生方に支えられて運営しています。
食の検定協会

第51期総会および懇親会のご案内

第51期の拓友会総会および懇親会を次のとおり開催致します。

50周年記念奨学金への募金のお願い

記

総会

1. 日時 平成21年11月1日(日)
午前11時より12時まで
2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科
共通利用室
3. 次第 (1) 一般経過報告
(2) 議事
 - ① 第50期事業報告
 - ② 第50期決算報告
 - ③ 第51期事業計画案
 - ④ 第51期予算案
 - ⑤ その他

国際食料情報学部国際農業開発学科の50周年記念事業によせられた寄付金をもとに50周年記念奨学金が創設されました。この奨学金制度は経済的な理由等で就学が困難になった在学生に対して経済的な支援を行うものです。この制度は平成19年度より施行されていますが、基金が50周年記念事業寄付金から事業費を支払った残金をもとにしているため、まだ脆弱であるのが現状です。日頃より本学科の発展に力強いご支援と深いご理解を頂いております卒業生の皆様ならびに関係各位に、ご厚意、ご協力を賜りたく、募金をお願い申し上げます。

国際農業開発学科学科長 高橋 久光

懇親会 (拓友会再発足25周年記念会)

1. 日時 平成21年11月1日(日) 正午より
2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科
共通利用室
3. 会費 4千円
(配偶者、子供の同伴歓迎致します。
配偶者および子供は、一人につき
2千円)

募金に関するお問い合わせ

国際農業開発学科 主事 中曽根 勝重

Tel 03-5477-2419

Fax 03-5477-4032

E-mail katsu10@nodai.ac.jp

出欠通知

総会および懇親会への出欠は10月23日までに、出欠通知を郵送されるか、次にご連絡ください。

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学国際農業開発学科 志和地 弘信

Fax 03-5477-4032

E-mail h1shiwac@nodai.ac.jp

なお、懇親会へのみの参加もお気軽にお申し込み下さい。

「拓友会ニュース」広告募集中

「拓友会ニュース」では、ニュースに掲載する広告を募集しています。
広告のサイズと料金は以下のようになっています。

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 名刺サイズ | 2万円 |
| 2. 名刺2枚サイズ(中入り) | 3万円 |
| 3. 名刺2枚サイズ(裏表紙) | 5万円 |

広告の掲載を希望される方は、下記へご一報いただければ幸いです。

TEL: 03-5477-2420 FAX: 03-5477-4032

E-mail: k-ita@nodai.ac.jp

国際農業開発学科 板垣 啓四郎

東京農業大学
国際農業開発学科
Department of International Agricultural Development

国際農業開発学科を目指す皆さんのページ
情熱ひろば
東京農大コミュニティ
BLOG随時更新中!

国際協力できる人

NEWS&TOPICS

EVENTS

2007年から国際農業開発学科を志望する中高生向けに学科を分かりやすく紹介するホームページ (<http://www.nodai.ac.jp/int/develop/index.html>) を公開しました。

海外実習や国内(学内・学外)実習、教員・学生の調査の様子、研究の様子について学部生・院生・教員からの投稿記事を随時掲載中。(<http://nodai.cc-town.net/modules/nmblog/categories.php>)。

国際協力を志すご子弟や教え子の進学先を考えていらっしゃる方、是非一度アクセスを。

第49期 一般会計収支決算

一般会計	(平成19年10月1日～20年9月30日)		
	予算額	決算額	差異
収入の部			
1. 会費	2,000,000	1,490,000	▲ 510,000
2. 事業	400,000	408,000	8,000
ニュース広告	250,000	260,000	10,000
行事等収入	150,000	148,000	▲ 2,000
3. 寄付等雑収入	30,000	500	▲ 29,500
4. 前年度繰越	52,217	52,217	0
5. 特別会計より繰入	0	150,000	150,000
合計	2,482,217	2,100,717	▲ 381,500
	予算額	決算額	差異
支出の部			
1. 事業支出	1,265,000	1,287,200	22,200
総会費	150,000	150,000	0
新入会員歓迎会費	200,000	200,000	0
名簿整備	150,000	100,000	▲ 50,000
ニュース発行	450,000	522,200	72,200
拓友会賞	40,000	40,000	0
在校生への補助	200,000	200,000	0
HP管理委運営費	75,000	75,000	0
2. 管理費	960,000	753,312	▲ 206,688
会議費	70,000	56,525	▲ 13,475
印刷費	100,000	67,143	▲ 32,857
交通費	60,000	36,000	▲ 24,000
通信費	500,000	450,279	▲ 49,721
消耗品費	100,000	123,260	23,260
雑給費	100,000	20,000	▲ 80,000
雑費	30,000	105	▲ 29,895
3. 特別会計積立金	100,000	0	▲ 100,000
4. 予備費	157,217	50,000	▲ 107,217
5. 次年度繰越	0	60,205	60,205
合計	2,482,217	2,100,717	▲ 381,500
特別会計	予算額	決算額	差異
収入の部			
1. 前年度繰越	1,022,802	1,022,802	0
2. 一般会計より繰入	100,000	0	▲ 100,000
3. 雑収入	1,000	511	▲ 489
合計	1,123,802	1,023,313	▲ 100,489
	予算額	決算額	差異
支出の部			
1. 次年度繰越	1,123,802	873,313	▲ 250,489
2. 一般会計に繰入	0	150,000	150,000
合計	1,123,802	1,023,313	▲ 100,489

第50期 一般会計収支予算(案)

一般会計	(平成20年10月1日～21年9月30日)		
	前年度	本年度	差異
収入の部			
1. 会費	2,000,000	1,800,000	▲ 200,000
2. 事業	400,000	500,000	100,000
ニュース広告	250,000	350,000	100,000
行事等収入	150,000	150,000	0
3. 寄付金等雑収入	30,000	30,000	0
4. 前年度繰越	52,217	60,205	7,988
合計	2,482,217	2,390,205	▲ 92,012
	前年度	本年度	差異
支出の部			
1. 事業支出	1,265,000	11,170,000	▲ 95,000
総会費	150,000	150,000	0
新入会員歓迎会費	200,000	200,000	0
名簿整備	150,000	100,000	▲ 50,000
ニュース発行	450,000	450,000	0
拓友会賞	40,000	40,000	0
在校生への補助	200,000	200,000	0
HP管理委運営費	75,000	30,000	▲ 45,000
2. 管理費	960,000	850,000	▲ 110,000
会議費	70,000	70,000	0
印刷費	100,000	50,000	▲ 50,000
交通費	60,000	50,000	▲ 10,000
通信費	500,000	500,000	0
消耗品費	100,000	100,000	0
雑給費	100,000	50,000	▲ 50,000
雑費	30,000	30,000	0
3. 特別会計積立金	100,000	100,000	0
4. 特別会計に返済	0	150,000	150,000
5. 予備費	157,217	120,205	▲ 37,012
合計	2,482,217	2,390,205	▲ 92,012
特別会計	前年度	本年度	差異
収入の部			
1. 前年度繰越	1,022,802	873,313	▲ 149,489
2. 一般会計より繰入	100,000	250,000	150,000
3. 雑収入	1,000	1,000	0
合計	1,123,802	1,124,313	511
	前年度	本年度	差異
支出の部			
1. 次年度繰越	1,123,802	1,124,313	511
合計	1,123,802	1,124,313	511

学生による研究室紹介

健康科学研究室

健康科学研究室は、国際食料情報学部教養分野に所属し、研究室員の大半は国際農業開発学科に所属する学生です。当研究室は、樫村教授のご指導のもと、ヒトの健康に関するテーマについて医学的見地から研究を行っております。

◎研究活動

国際農業開発学科に関連するテーマとしては、熱帯地方に多くみられる感染症の調査研究、異常環境への生物の適応メカニズムに関する研究があげられ

ます。異常環境のなかでも、とくに熱帯の暑熱環境と高地の低圧低酸素低温環境に対して、生物は適応できるか、それとも不適応により病気を発症するか、また、その病気の発症を予防できるか、さらに、その病気の発症を治療できるかについて検討しています。暑熱環境適応は、熱中症に関するテーマであり、体温調節反応である体内温度、皮膚温度、皮膚血流量、発汗反応そして熱タンパク遺伝子などの解明が研究テーマであります。高地環境適応は、高山病に関連するテーマであり、肺循環反応と血管反応である低酸素に対する肺血管弛緩および収縮酵素タンパク遺伝子、肺循環動態、寒冷に対する末梢血管動態

の解明が研究テーマであります。これらの研究のために、本研究室では常圧低酸素ルームの研究施設を持ち、標高5,500mの高地をシミュレートできるようになっています。また、最近では、当学科の豊原秀和教授が開発したカムカムを研究材料として、その果皮に豊富に含まれるポリフェノールおよびビタミンCの高血圧抑制作用のメカニズム解明を行っています。その他、尾瀬国立公園内の散策による癒し効果、温室の暑熱環境条件に関する研究と幅広いテーマで行っています。

一方、本研究室は運動部所属学生が多いため、自分の行っている部活動に関するテーマの研究も行っており、陸上競技・ボクシング・バレー部に所属する学生は、栄養調査やストレスの研究、ホッケー・サッカー部に所属する学生は、高地トレーニングの効果に関する研究などを行っています。近年、そのような卒業研究論文が、以下の学会誌への掲載や学会発表がされました。

- ・大学女子長距離選手における運動時の発汗がヘモグロビン濃度に与える影響、学校保健研究、50巻3号、196-202、2008.
- ・陸上競技長距離選手の熱中症既往者における暑熱環境下運動時の体温調節反応、日本生気象学会雑誌、45巻2号、95-100、2008.
- ・カムカム果皮抽出液による高血圧改善効果における血管内皮細胞の影響、5巻、83-89、2008.
- ・尾瀬国立公園での中高年男性のトレッキング時に

おける生理的負担度および景観鑑賞時の自律神経活動、日本生気象学会雑誌、46巻2号、81-90、2009.

- ・中高年者における夏季暑熱環境下農作業時の体温調節反応の特性、第46回日本体力医学会（別府）、2008.

◎研究室活動

毎週一回、研究室に集合し、発表会および討論を行っています。

◎研修旅行

毎年、一回、卒業論文発表会と懇親を兼ねて、一泊旅行（平成21年度は熱海温泉）を行っています。

◎平成21年度学生の構成

現在、学部4年生20名・3年生18名、博士前期課程院生1名（開発学専攻）、博士後期課程院生6名（環境共生学専攻）が在籍しています。また、本研究室に所属する運動部の学生は、毎年、農友会運動部でめざましい活躍を遂げており、平成21年度は陸上競技部長距離主将、ボクシング部主将、野球部副主将、チアリーダー部主将等をはじめ運動部の中心的選手を多く輩出して文武両道で精神で頑張っております。



常圧低酸素室（標高3000m相当）での運動実験風景

東京農業大学技術開発！ カムカム商品のご案内

カムカムドリンク



果汁12%ドリンク用
1箱（1缶190cc入×30缶）
¥4,800+送料¥500

カムカム果汁100



果汁100%ドレッシングなどに
1箱（1瓶200cc入×6瓶）
¥5,400+送料¥500

世界一のビタミンC含有量

カムカム協会は、これまで貧しさ故にやむをえずコカ栽培をしていた農民に現金収入の代替作物としてカムカムを栽培させることにより麻薬撲滅にむけて取り組んでいます。

ご注文はこちらまで

TEL 03-5477-2250

FAX 03-5477-2251

株式会社 メルカード東京農大
代表取締役社長 豊原 秀和



おいしさは愛。

ハム工房ぐろーはるのハム&ソーセージは、《和豚もちぶた》を100%使用しひとつひとつ手間と時間をかけてつくられます。

ハム工房
ぐろーはる

〒377-0052 群馬県渋川市北橘町上箱田800
TEL 0279-52-3746 FAX 0279-52-3581
フリーダイヤル 0120-44-3746

グローバルピク农场株式会社

代表取締役 赤地 勝美（昭和39年卒業）
URL <http://www.gpf.co.jp>

70歳の挑戦

農業拓殖学科 第3期生 井口 國勝

私がヘイケホタルを飼い始めた理由は2つあります。

1つは今から13年前、何か生涯をかけて熱中できる事はないか探していた折、出合ったのがヘイケホタルでした。ホタルの人工飼育は室内でできることが大の理由です。第2の理由は、ただ人工飼育するだけでなく、ヘイケホタルの生態研究に着手し、人工飼育と生態研究をセットで取り組んでみたい、と思ったからです。

人工飼育に関する書物も読みましたが、実際に飼育を開始すると一般論で書いてある内容と異なり、手探り状態で失敗の連続でした。水の問題と餌の問題が早くも発生し、その対応に苦労を重ねました。平成9年より基礎データとなる室内水槽水温、室内気温、室外水温、気象庁発表の東京最高気温・最低

気温・湿度・天気の7項目について調査記録を開始し、現在も続行中です。

ヘイケホタルの生態研究については、2つのテーマで研究しています。1つはヘイケホタルの羽化に関する研究、2つ目はヘイケホタルの孵化に関する研究です。羽化に関する研究は平成10年より開始し、孵化に関する研究は平成15年より開始し、現在も継続中です。結果は下表の通りです。

尚、考察については長くなるので省略します。

何の変哲もない数字ですが、私にとっては膨大な基礎資料を1つずつ整理してやっと辿り着いた貴重な数字です。これで「終わり」という事ではなく、今後も研究を長く続けたいと考えています。70歳にして、探究心と研究心はいささかも衰えていないことを付け加えておきます。

羽化に関する11年間の研究結果 期間 平成10年より20年まで 単位・・・匹（ ）内の数字は%を示す

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
総羽化11年間 合計	♂	10 (62)	268 (85)	2970 (61)	5419 (55)	1849 (42)	96 (45)	10621 (54)
	♀	7 (38)	48 (15)	1875 (39)	4479 (45)	2612 (58)	117 (55)	9138 (46)
	合計	17	316	4854	9898	4461	213	19759

孵化に関する6年間の研究結果 期間 平成15年より平成20年まで 単位・・・匹

	幼虫年度	羽化日	♂	♀	合計	孵化開始日	孵化終了日	孵化期間	初羽化から初孵化まで	孵化数	孵化数♀
総合計	13-19		8379	6982	15361					58726	
♂♀%		—	55%	45%	100%	—	—				
総平均								20.2日	21.9日		45.3匹

ヘイケホタルの一生

